

第1期計画の主要な取組とその成果

○古民家等再生活用事業

上野城下町区域では、官民が連携し、空き家となった古民家を歴史的資源として活用する「伊賀上野城下町ホテル」事業を展開している。国登録文化財「栄楽館」を拠点に、現在5棟が開業し、高付加価値の宿泊施設として注目を集めている。



○道路美装化事業



上野天神祭のだんじり及び鬼行列の巡行路線を中心に、延べ1.3kmにわたり道路の脱色アスファルト舗装及び側溝改修を実施した。往時を思わせる脱色アスファルト舗装は、町家建築が立ち並ぶ上野城下町の景観の維持・向上に寄与した。

○まち巡り拠点施設整備事業(成瀬平馬家長屋門活用事業)



武家屋敷の成瀬平馬家長屋門を、観光客等の回遊性を高めるためのまち巡り拠点として、保存整備を実施した。北側に隣接して建設されている忍者体験施設「万川集海」(令和7年4月開業予定)とともに、新たな観光拠点としてにぎわうことが期待されている。

○文化財建造物の保存修理事業と防災設備整備事業

文化財を未来に継承するため、経年により傷みの著しい建造物の保存修理事業を実施した。三重県最古級の建造物、春日神社拝殿や俳聖松尾芭蕉にちなむ蓑虫庵、武家屋敷である入交家住宅の保存修理事業を実施した。

また、観菩提寺本堂・楼門や俳聖殿など重要文化財の防災施設の整備に努めた。



第1期計画の効果

○外国人観光客の増加と観光客の回復

伊賀流忍者博物館における外国人観光客の割合は、計画当初13.6%から28.2%(令和6年度)に増加した。また、重点区域内の観光施設の入込客数は、計画策定当初からコロナ禍により大きく減少したものの、歴史的建造物や古民家等の利活用や、歴史的風致を維持する環境整備により、コロナ禍前の水準にほぼ回復した。

○歴史的建造物の文化財指定・登録への取り組み

文化財の指定・登録について、指定文化財は2件、国登録文化財は4件7棟を新たに登録した。また、計画策定時20件であった歴史的風致維持向上形成建造物は、1期計画期間中に17件を新たに指定した。

○歴史・文化の保存と継承の取組に対する満足度の上昇

市民まちづくりアンケート結果における「歴史・文化遺産を守り未来へと引き継ぐ」の項目で、満足度ポイントは59.7から63.4へ、参画度ポイントは31.5から36.6へ、それぞれ上昇した。

伊賀市歴史的風致維持向上計画(素案)(第2期計画の取組方針)

第2期計画のコンセプト

- 日本イコモス国内委員会が選定する「日本の20世紀遺産20選」の一つとして選ばれた「伊賀上野城下町の文化的景観」を表す重層的な歴史的・文化的景観を歴史まちづくりに活かし、高付加価値化する。
- 中心市街地である上野城下町区域と、阿保や島ヶ原区域などかつての宿場であった区域を中心に、農村部が一体となり持続可能な地域の発展を目指す。
- 伊賀流忍者、松尾芭蕉を生み出した歴史的・文化的景観を、他にない地域の魅力として磨き上げ、交流人口の増加を図る。

第2期計画の取組方針

- まち全体の魅力向上に向けて、官民連携した歴史的建造物を活用した取組を継続して進める。史跡上野城跡(上野公園)の保存と活用の取組を進め、観光拠点としてさらなる整備を進める。
- 上野天神祭りやかっこ踊り、獅子舞など伝統行事・民俗芸能について、地域の活性化に向けた取組を行う。
- 伊賀流忍者に関連する文化財、松尾芭蕉の関連施設について、観光や文化の発信の拠点となるような取組を進める。

第2期計画の主要な取組

「日本の20世紀遺産20選」のまちづくり

・伊賀市にぎわい忍者回廊整備PFI事業
・景観計画や史跡上野城跡保存活用計画を策定するとともに、古民家等再生や修景助成などの事業により歴景観の維持に向けた取組を行う。

伝統行事・民俗芸能の保存・継承

上野天神祭のダンジリ行事・勝手神社の神事踊、獅子舞等で使用される用具の保存修理、普及啓発事業など継承に向けた取組を行う。

伊賀流忍者・芭蕉翁関連の施設等の整備

中世城館の環境整備や寺社の保存修理など、忍者に関連する文化財の保存活用、芭蕉翁顕彰の施設整備に向けた取組を行う。

第1期計画の主要な取組とその効果

○史跡松江城石垣修理事業&松江城授業プロジェクト

松江城の石垣整備を行い景観を良好な形に蘇らせるとともに、市内の小学生を中心に見学会を実施。平成30年度は35校約1500名が参加し、愛着や誇りの醸成が図られた。



石垣の整備



松江城の見学の様子

○武家屋敷保存修理事業

保存修理工事を実施し、武家屋敷の庭園内でファッションショーが開催される等、文化財としての価値の再認識や歴史的資源を身近に感じる機会の創出につながっている。



外観の改修



着物ファッションショー

○まちあるき観光拠点整備事業

歴史的建造物を活用した体験施設カラコロ工房のガーデンテラスにドームを設置し、天候に左右されないイベント広場として観光客の満足度向上が図られた。



カラコロ工房のイベントの様子



○市民のまちなみ形成に対する協定の締結

堀川の一つである京橋川沿線で歴史まちづくり協定を5つの町内で締結。形態意匠の統一基準を設け、住民発意の歴史的なまちなみ景観の形成に努めた。



京橋川沿線道すじ修景事業の範囲

第1期計画の成果

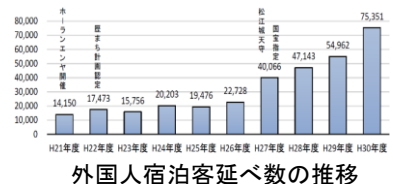
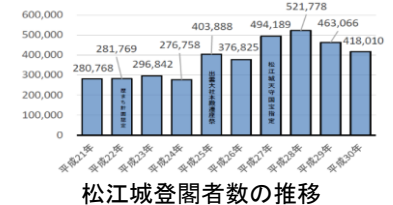
○松江城上閣者数の増加

平成28年に52万人を超えるピークを迎え、歴まち計画認定時と比べ増加。

出雲大社本殿遷座や松江城天守国宝指定等の出来事の際に増加する傾向にあり、松江城を中心とした城下町松江の歴史・文化的な魅力を継続して発信する必要がある。

○外国人宿泊客数延べ数の増加

県と連携したプロモーションや各国の趣向に合わせた情報発信、旅行会社等への営業等を行ったことにより、歴まち計画認定時と比較して2倍以上の推移で増加。



第2期計画のコンセプト

各国の趣向に合わせた情報発信や旅行・バス会社との連携により、インバウンドを含む観光客の増加がみられ、松江城への登閣者数等に効果が現れているところ。

松江城に集まった観光客がまちあるきを楽しみ、城下町を中心に面的な滞在型観光につなげることを目的に、歴史的建造物を活かした茶の湯文化の普及啓発や伝統芸能「佐陀神能」等の紹介・体験型コンテンツの開発を推進し、各エリアの個性や魅力を高めるための環境整備・情報発信について重点的に取り組む。



茶室「菅田庵」の修復



伝統芸能「佐陀神能」



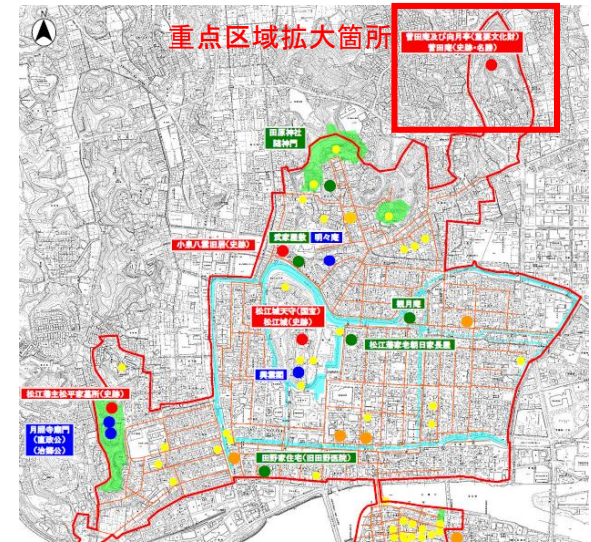
第2期計画の取組方針

○「まちあるき観光の充実」を取組方針に追加

松江市がもつ様々な歴史・文化の魅力を楽しむための環境整備・情報発信に重点的に取り組む。

○重点区域の見直し

城下町エリアにおいて、第1期計画で整備した茶室「菅田庵」や重要文化財「向月亭」を含む範囲まで重点区域を拡大し、「茶の湯文化に見られる歴史的風致」のさらなる向上に取り組む。



城下町エリアの重点区域

第2期計画の主要な取組

○まちあるき観光の推進



地名の由来がわかる案内版整備や地域住民とのワークショップ等を通じ、さらなる賑わいの創出を図る。

○茶の湯文化の継承・発展



茶室などの保存修理・活用や出前講座等による人材育成などを推進し、茶の湯文化の継承・産業活性化を目指す。

○伝統芸能のコンテンツ化



伝統芸能で使用する用具の整備等を通じ、紹介・体験を充実させ、幅広く啓発・情報発信を行う。